

県立高校の再編整備基準の変更案についての意見募集の結果

山形県教育委員会では、県立高校の再編整備基準の変更案について意見募集をしたところ、以下のような御意見をいただきました。貴重な御意見をありがとうございました。

いただいた御意見を十分考慮して「県立高校再編整備基本計画」の一部を改定いたしました。今後とも、本県の教育行政への御理解と御協力をお願いします。

1 意見の募集期間

令和 2 年 1 月 22 日（水）から令和 2 年 2 月 5 日（水）まで

2 提出された意見の件数

7 名から 14 件

3 提出された意見の概要及び意見に対する県教育委員会の考え方

番号	分類	意見の概要	県教育委員会の考え方
1	変更案に係る意見	○ 現在設置されている高校すべてが地域の担い手を育てる重要な場であり、所在する自治体にとっては不可欠である。「地域連携協議会」の設置は地域の声を大切にし、ニーズを正確に反映した活性化策を打ち出せるものとして賛成である。	○ 人口減少社会の中、地域から求められる学校の役割が増加しており、また、国も地域振興の核として高等学校教育の質の向上に取り組む方針を示しているなど、小規模校を取り巻く状況に変化が生じております。 このため、1 学年当たり 1 学級規模の小規模校については、お示しした変更案のとおり、地元自治体と学校関係者による「学校魅力化に係る地域連携協議会（仮称）」（以下、「協議会」という）等において、学校の魅力化、活性化策について検討し、3 年間を目処に実施することといたします。 なお、実施後の入学者数の推移によっては、学校の在り方について、改めて地元自治体と協議することといたします。
2	変更案に係る意見	○ 既に地域と連携した活動や小学生への学習支援なども行っており、存続の方向につながる変更案に賛成である。	
3	変更案に係る意見	○ 過疎の進んだ地域では公共交通機関の利用も限られており、学校の統廃合は通学するハードルを高くすることになりかねない。小規模校がより存続につながる変更案に賛成する。	

4	変更案に係る意見	○ 県立ではあるが地域の学校という側面もあり、独自に多大な支援を行っている町もある。今後も県行政、高校、町行政、町民、関係団体が一緒になって学校づくりをしていくべきだ。	○ 御意見を受け、地元の自治体がより主体となって協議会を運営し、学校を核とする地域力強化に取り組むことができるよう一部表現を修正いたしました。
5	変更案に係る意見	○ 地域独自の活性化プランを官民挙げて構築し、実践していくことで高校の入学者も確保し、地域の活性化にもつながる。	
6	変更案に係る意見	○ 活性化に向けた取組が小規模校だけでなく各高校、小中学校でも実践できれば山形県全体の教育力の向上につながる。	○ 小規模校に限らず、地域と学校が連携し、地域の教育力を生かしながら教育環境の充実を図っていくことは大切なことと考えております。各協議会での魅力化、活性化に向けた取組みの成果については、県立高校全体で互いに共有してまいります。
7	変更案に係る意見	○ 学校の規模が大きい方が多くの部活動を設置できたり、生徒も多くの仲間に出会ったりすることができる。切磋琢磨できる環境を整えるためには最低でも1学年当たり3学級程度の生徒数が必要であり、学校を統廃合し集約させるべきだ。	○ 今後も、再編整備による新しい学校づくりなどを通して、高校として望ましい学校規模（1学年当たり4～8学級）を確保し、教育の質的な向上と学校の活力の保持を図ることを基本といたします。
8	変更案に係る意見	○ 県、各自治体も財政的な余裕は無尽蔵ではない。1学年当たり1学級規模となった時点では、これまでの再編基準で再編整備を進めることが妥当である。学校設備なども充実させることができるため、コンパクトシティなどのまちづくりの考えなどからも限りある予算や人材を集中させるほうがよい。	1学年当たり1学級の学校については、先述の通り、地元自治体と学校関係者で運営される協議会において、魅力化、活性化を検討し、実施することといたします。
9	その他の意見	○ 特別支援教育でもきめ細かい、手厚い指導、支援を行っている。今後も、教育ニーズに応じたきめ細かい支援などで魅力ある学校づくりを進めてもらいたい。「通級による指導」のできる学校の複数設置が必要である。	○ 今後も配慮を必要とする生徒に対して、本人や保護者と相談し、どのような支援が必要なのかを確認しながら支援に努めてまいります。 現在、県立高校2校で「通級による指導」が行われています。今後も「通級による指導」の充実に努めてまいります。

10	その他の意見	○ 不登校など様々な事情を抱えた生徒に対応できるよう、高校の定員はあまり減らさないでほしい。	○ 中学校卒業生数の減少に対応して、一律に削減するのではなく、生徒や地域のニーズなども踏まえながら入学定員の削減を進めております。また、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばすことができる環境を確保する観点から、今後も「学び直し」など多様な学習ニーズに対応するなど教育内容の充実に努めてまいります。
11	その他の意見	○ より多くの高校でもインターンシップなど地域企業などと連携し実業経験などを学べる機会がほしい。地域産業と一体となった担い手の要請が可能となる特色ある学校の設置を期待する。	○ 山形の未来をひらく教育推進事業等により、多くの県立高校でインターンシップインターンシップの実施など、地域と連携した取組みを実施しております。今後もキャリア教育の一層の充実を図るとともに、特色ある学校づくりに努めてまいります。
12	その他の意見	○ 高校時代から若手起業家、ベンチャー育成などにつながる学びを準備してほしい。	○ 今後、グローバル化の進展、人工知能（AI）、IoTの広がりなどの急速な技術革新の進展などにより、産業構造に更なる変化が生じることが予想されます。 今後も、教育内容の充実を図るとともに、時代の変化を見据えながら再編整備を進め、チャレンジ精神や創造性を持ち、社会や地域をけん引できる人材の育成に努めてまいります。
13	その他の意見	○ 都市部への人口集中を回避するためには、魅力ある学科の新設が必要であり、森林環境科や芸術科、地域文化創造科など地域の魅力を取り入れた学科や、持続可能な社会の構成に寄与する専門性の高い学科など県内唯一の学科の新設し特色を図るべきだ。	○ 学校と地域が連携し、地域の教育資源を活用した教育の充実を図っていくことは重要なことと認識しておりますが、学科の新設について、特に専門性の高い学科については、中学生が高校を選択する段階で、明確な進路意識を確立することが

			難しいことから 40 名の入学定員を充足することができるのかについても考慮する必要があると考えております。
14	その他の意見	○ 交通の発達や、学校のカリキュラムの多様化などに対応し、他の都道府県などの受験、もしくは他の都道府県、学区からの受験もしやすい環境をつくるべきだ。	○ 県外からの生徒募集については、今後検討される入学者選抜の改善の視点を踏まえ適切に対応してまいります。

4 問い合わせ先

山形県教育庁高校教育課高校改革推進室 電話 023-630-2493

<公開資料>

県立高校再編整備基本計画の一部改定について(令和2年2月12日、定例教育委員会)